

令和7年度 授業改善プラン

地域名	南房総教育事務所	学校名	市原市立国分寺台西小学校
-----	----------	-----	--------------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

- 算数の調査結果から、基本的な計算を苦手とする児童が多いことがわかった。ほとんどの分野において、全国・県の平均を下回っている。
- 主体的・対話的で深い学びに関する質問調査では、「算数の授業の内容はよく分かる」と回答した児童は、全国平均よりも低かった。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- 単元によって習熟度別と等質の少人数指導を工夫して使い分ければ、基礎学力が向上し、課題の解決に進んで取り組む児童が増えるだろう。
- 「自分の考えをノートに書く、友達に自分の考えを伝える」活動を継続し、対話的な活動を取り入れれば、児童相互が関わり合い、自分の言葉で表現する児童が増えるだろう。

3. 具体的な実践

【少人数指導の取組】※3～6年

- 計算領域では習熟度別少人数指導を実施し、図形領域では等質少人数指導を実施した。基礎のクラスは、5～10人の学級になるように編成した。

【同一学年、学級との学び合いの取組】※全校

- 「思考し、表現する力を高める実践モデルプログラム」を活用し、授業改善を図った。
- 児童意識調査の結果と、抽出児童のノートの変容を分析（意識調査・観察・ノート）し、授業改善に活かした。

4. 成果

- 習熟度別少人数指導では、個別指導を充実させることで、児童の基礎学力や学習に取り組む意欲が向上した。
- 発展クラスにおいては、児童の実態や関心に応じて課題設定を行うことで、より多くの問題や発展的な内容に取り組むことができた。
- 抽出児童の変容を分析することで、教師が課題意識をもってよりよい授業づくりを行うことができた。

◆担当指導主事から

- 加配教員を活用し、クラス編成を工夫し児童の実態に合わせた少人数指導を行っていることが、意欲や学力の向上につながっている。
- ノートへの考えの記述を継続して指導することにより、考えをもつことができる児童は増えてきている。より分かりやすい表現をすることや友達のことを聞いて理解を深めるための手立てが必要と考える。